

子どもたち一人ひとりがもっている力を
安心して発揮できる連携の在り方

～幼保での学びを生かす
授業を目指して～

矢向地区
ゆめいろ保育園
矢向小学校

推進テーマの設定理由

- 園と小学校の担任同士がより連携をすることで、幼児・児童の育ちや学びの連続性をもたせる。
- スタートカリキュラムを充実させることで、小学校に入学してきた子どもたちが安心して学校生活を送れるようにする。
- 子ども主体の活動の場を設定することで、子ども自身が学校とのつながりを感じたり自己を発揮して取り組んだりできるようにする。

以上のことを目指して、研究推進を行う。

推進内容

- ①子ども観の共有(打ち合わせ)
- ②子どもの実態把握
- ③スタートカリキュラムの実施
- ④交流の場の設定

今年度の重点課題

目指す子どもの姿を共有

園や学校の実態や雰囲気を知る

子ども主体の交流の場を増やす

連携事業の実際

①子ども観の共有(打ち合わせ)

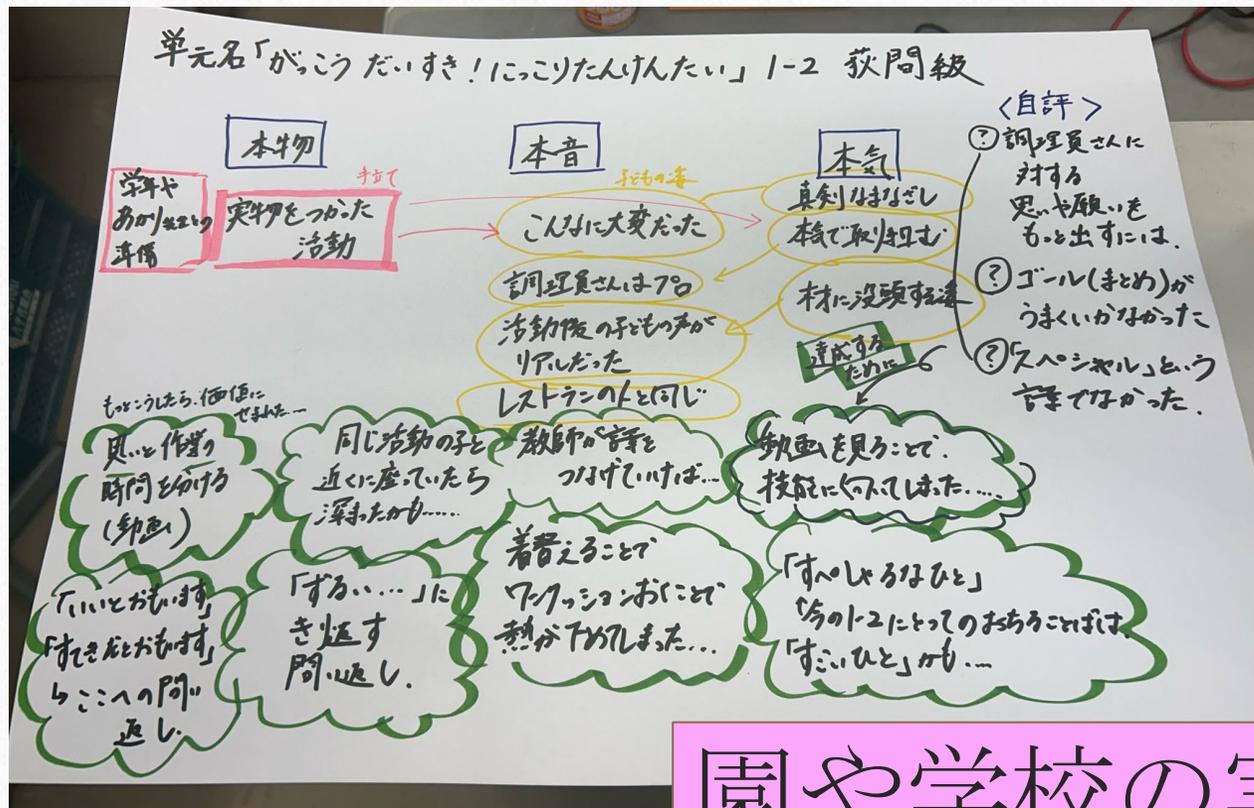


- 研究テーマ、重点課題の確認
- 育てたい子どもの力
「他者との関わりの中で、関心の幅を広げる力」
- 交流計画の相談
- 施設見学

目指す子どもの姿を共有

連携事業の実際

②子どもの実態把握(重点研究会・協議会への参観)



協議会では、ゆめいろ保育園の園長先生(重点研講師)から「子どもたちは今起こっている目の前のことを見ているため、これから体験と体験がつながってくる」等、幼児期からの成長過程を踏まえたご指導をいただき、学びにつなげられた。

園や学校の実態や雰囲気を知る

連携事業の実際

②子どもの実態把握(保育園参観)



- ・ルールを守る姿
- ・自分たちで考えて行動する姿
- ・友達の話をしっかり聴く姿

年長児って、こんなにたくさんのことができるんだ。

園や学校の実態や雰囲気を知る

連携事業の実際

③スタートカリキュラムの実施



子ども主体の交流の場を増やす

連携事業の実際

③スタートカリキュラムの実施(学校探検の様子)

屋上の鍵は、
どこにありますか？



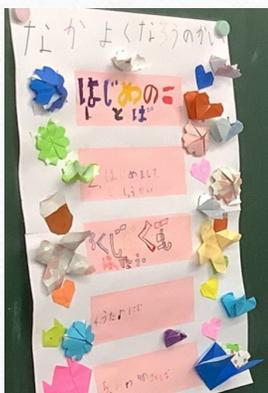
ここは、
なんのおへやかな？



子ども主体の交流の場を増やす

連携事業の実際

④交流の場の設定(交流会)



小さい子となかよくなりたいな。

小学校のことを教えてあげたい。
「くじらぐも」を読んであげようよ。

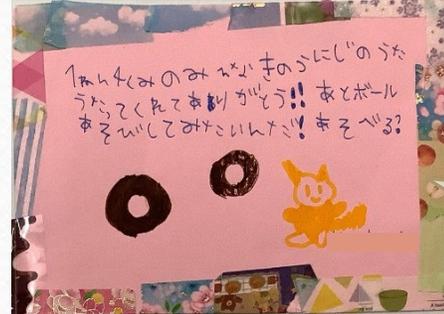
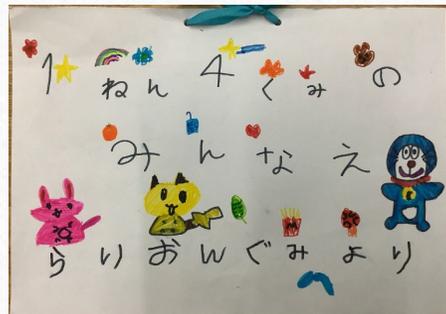
ゆめいろっ保育園でもうたっている、「にじ」を一緒に歌いたいな。

子ども主体の交流の場を増やす

連携事業の実際

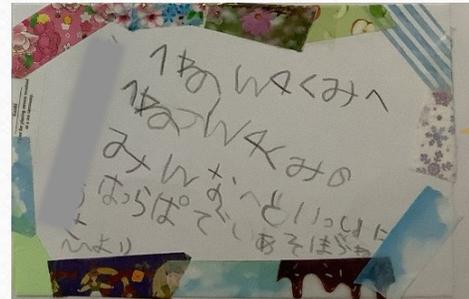
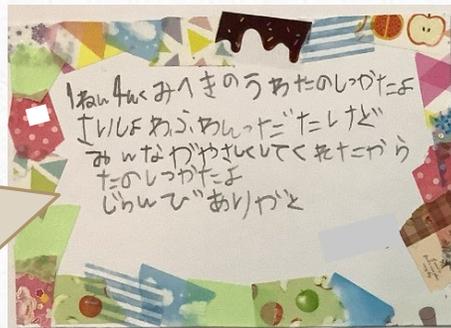
④交流の場の設定(お手紙交換)

歌を歌って
楽しかったよ。



ボール遊びを
してみたいんだ!

みんなが
優しくしてくれたから
楽しかったよ。



みんなと一緒に
原っぱで遊ぼうね。

子ども主体の交流の場を増やす

成果と課題

- 小学校教員と保育士との交流

○成果

- 繰り返し関わることで、親しみをもって交流をすすめられた。
- 困ったときに気軽に相談できる環境が、子ども理解を深めた。
- お互いに実態を知ること、より具体的に接続を意識した学びづくりができた。

○課題

- 他の保育園ともこうした連携を行うことで、よりスムーズな幼保小連携が行えると思った。
- スタートカリキュラムでのかかわりがあるとよいと思った。

成果と課題

- 児童と園児の交流

○成果

- 1年生は、交流内容を自分達で企画したり、優しく接したりすることを通して自分の成長を感じられる機会となった。
- 園児は、矢向小の子どもたちとの関わりを通して、緊張が減り、小学校は安心して通える楽しい場所だと感じ、入学に対する不安が期待に変わってきた。

○課題

- 園見学や交流を通して知った内容を学校でももっと取り入れることで、「これ、園でもやったよ。」という経験の積み重ねが、安心して自信をもって学校に通える手助けになると感じた。